

基準化する内容一覧

2-1⁻³

	共通基準	個別基準	
案内サイン	・標準案内用図記号 ・色彩	案内・誘導サイン共通基準	・地図の向き・範囲・縮尺 ・情報掲載基準 ・地図内文字 ・地図内共通記号 ・本体の基準
		・表示面の高さ ・表示面モジュール	
誘導サイン	・日本語の表記 ・外国語の表記	・使用書体	・表示基本要素 ・矢印 ・情報掲載基準
記名サイン	・メンテナンス ・情報通信技術(IT)		・使用書体 ・文字の大きさ
規制サイン			・使用書体 ・文字の大きさ

表示面の高さ 3-1⁻¹

■サイン表示面の高さ

「表示面」の高さは、視認する距離を考慮する必要があります。一般的に情報量を増やせば視認距離が短くなり、情報量を減らせば遠くから視認することが可能になります。

案内サインは、情報量が豊富なため、内容をしっかり確認できるように、近距離での利用者の視点の高さに配慮する必要があります。

誘導サインは、離れた位置からでも視認できるように、高い位置に掲出するものと、地図を含むため、案内サインと同様の高さに掲出するものとがあります。

その基本的な高さは、大人から児童、及び車椅子使用者の平均的な視点の高さと、仰角・俯角から次のとおり設定します。

案内サインにおける「表示面」の高さは、視距離 1 m 程度から見るため、※1 0.6m～2mの範囲内とします。

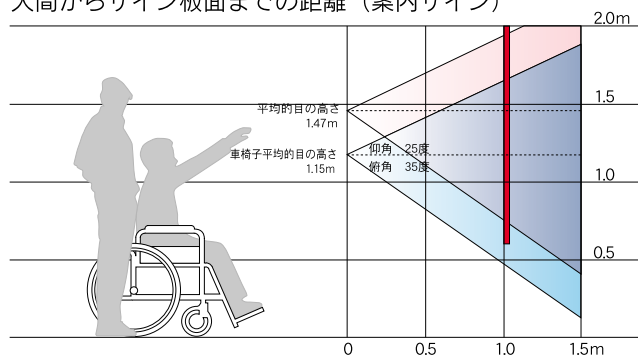
誘導サインにおける「表示面」の高さは、視距離 1 m から 6 m を考慮し、※1 0.6m～※2 2.25mの範囲内、及び※2 2.5m～3 mの範囲内と2通りとします。

■健常者と車椅子使用者の視野とサイン板面の可視範囲

出典：「バリアフリー サイン計画とまちづくり」井上由美子著

出典：「高齢者にわかりやすい 駅のサイン計画」（財）共用品推進機構

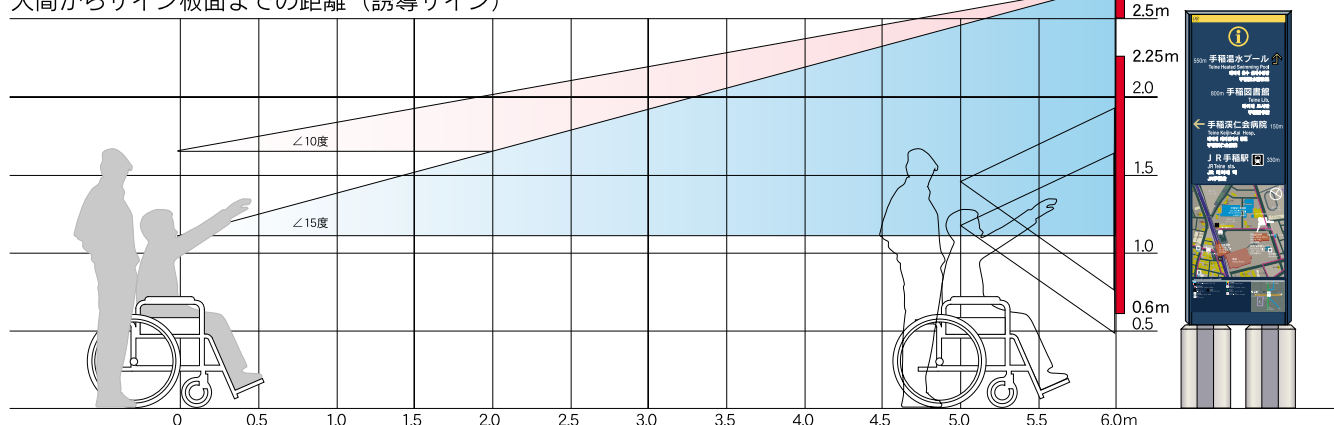
人間からサイン板面までの距離（案内サイン）



※1 下限値は、冬期の積雪期間を考慮し、通常より10cm程度高く設定しています。

※2 近距離における誘導サインにおいては、4ヶ国語表示での文字間を考慮すると10cm程度高くなります。

人間からサイン板面までの距離（誘導サイン）



表示面モジュール

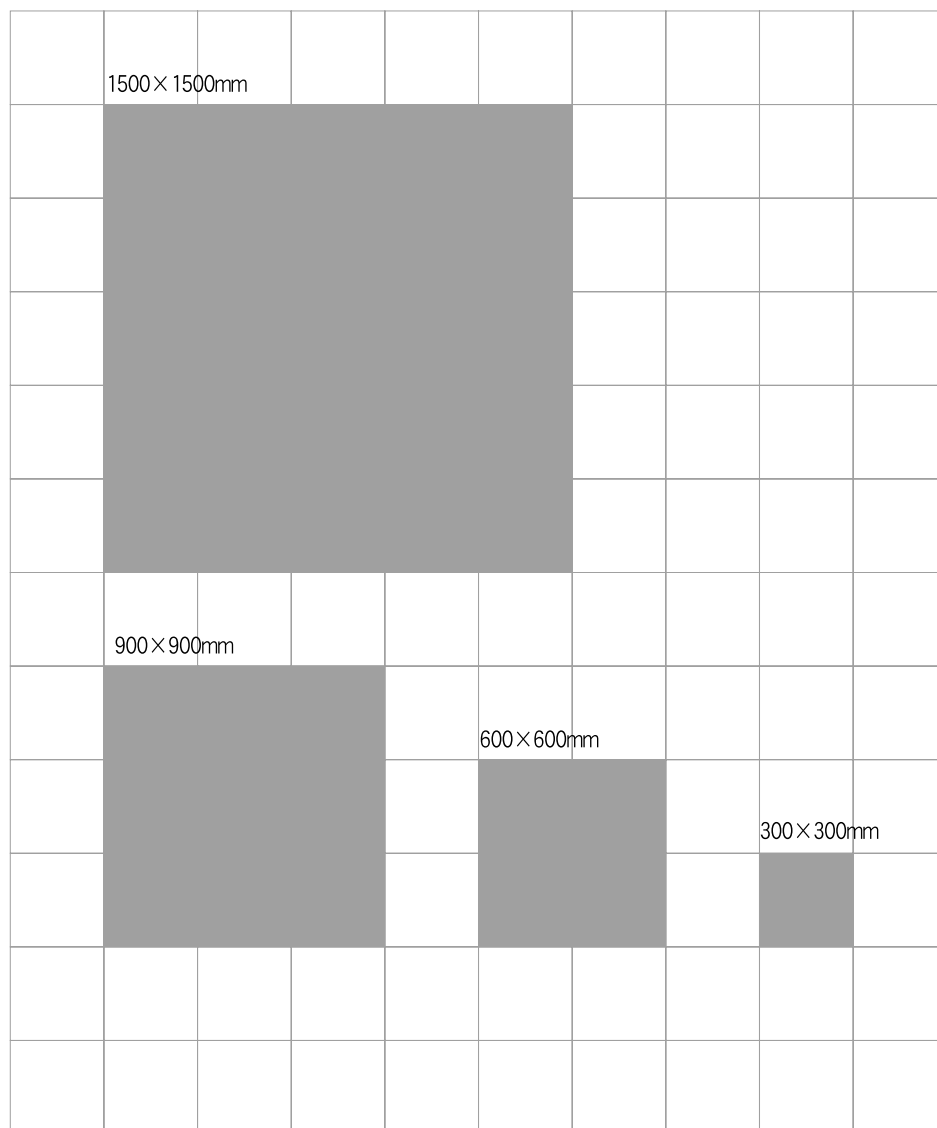
■表示面モジュール

案内・誘導サインのシステムを構成する上で、一貫した情報の伝達を行うために、人が顔を動かさずに見ることのできる可視範囲から900角を基本とし、各種サインに必要な情報量から「表示面」の基本寸法を割り出し、それらを体系化することによって、情報の伝達に一定のルールが設定され、簡潔で分かりやすいサインにすることができます。

この寸法体系をモジュールと言い、多種のサインが発生しても、情報量の過不足や不調和を起こすことなく計画することができるようになります。

■表示面のモジュール

1500×1500・900×900・600×600・300×300



■サインの文字

サインの文字は、地点名や施設名などの名称表示と、解説や注意書などの文章表示の2通りに用いられます。

サインの掲載情報は、大部分が文字により伝達されています。そのため、サインに用いられる文字は、読みやすさや、作成・変更等に対応しやすい加工性等が求められ、その情報内容等についても十分な検討が必要になります。

■書体の選択

●和文

和文書体には、明朝系とゴシック系の2系統があります。明朝系の書体は毛筆文字を模しており、日本文字らしい繊細な表情が特徴的です。しかし、一般的に縦線に比べて横線が細いため、遠方から読みづらくなることや、それぞれの文字幅にばらつきがあり、美しく並べるには文字詰めが必要があるなど、その可読性、加工性に若干の問題があります。

ゴシック系の「ゴナ体」は、文字の線幅がほぼ一定で、漢字、カナとも字枠いっぱいに設計されています。そのため、可読性に優れ、文字詰めが必要がほとんどなく、部分的な情報更新にも向くことから、公共サインに用いる標準書体とします。

●欧文

欧文書体には、セリフ（飾り）のあるものとないものの2系統があります。和文と併せて使用する場合、明朝系はセリフのあるもの、ゴシック系はセリフのないものを併せるのが基本となります。「ゴナ体」と組み合わせる欧文は、セリフのない一般的な書体として「ヘルベチカ」とします。

●数字

数字は、英文に準ずることが基本です。欧文同様に「ヘルベチカ」とします。

●その他の外国語

その他の外国語は、国内で利用できる角ゴシック系の書体の中から、標準的なものとして、中国語は「中文石井ゴシック体」、韓国語は「ハングル文字ゴシック体」とします。

使用書体

■文字の大きさ

案内地図内に用いる文字の大きさは、地図の縮尺や設置場所の状況等により左右されますが、平均的に1 mの距離において最低限可視できる大きさとして、最低文字天地を6mmに設定します。

札幌市 Sapporo City

最低文字天地6mm

■行合わせ

「頭合わせ」、「末尾合わせ」、「センター合わせ」の3つの基本タイプがあり、それぞれに異なる印象があります。

なお、文字間隔を変えて左右を均等に合わせる「均等合わせ」は、単語のかたまりとして認識しにくいので、サインの表示方法としては避けます。

「頭合わせ」「末尾合わせ」
表示の重心が偏るために方向性が出しやすく、秩序感があります。

「センター合わせ」
安定感があり、記名表示に多く用いられます。

「均等合わせ」
望ましくない例

〇〇〇連絡所
〇〇〇活動プラザ

〇〇〇〇研修センター
〇〇〇活動センター

〇〇〇連絡所
〇〇〇活動プラザ
〇〇〇〇研修センター
〇〇〇活動センター

〇 〇 〇 連 絡 所
〇 〇 〇 活 動 プ ラ ザ
〇 〇 〇 〇 研 修 セ ン タ ー
〇 〇 〇 活 動 セ ン タ ー

■書体の使い方

サインの基本的な書体の選択は、和文は「ゴナ体」、欧文は「ヘルベチカ」、数字は「ヘルベチカ」、その他の外国語はゴシック系の文字としましたが、サインの種類によって使い方に留意が必要です。

案内サインは、利用者が「表示面」の掲載情報を判読しやすいよう、情報の優先度によって基本書体の大きさ、太さ、色彩に変化をつけます。さらに補助的な情報（区名・町丁名等）は、明朝系の書体を使います。（P 62参照）

誘導サインは、遠方からの視認性を高めるために基本書体（ゴナ体）の太字を使います。（P 69参照）

記名サインは、基本的には誘導サインと同様の扱いですが、建物や周辺環境との調和や場所性を踏まえて、書体を変えることを可能とします。（P 75参照）

■和文書体

明朝系	○石井明朝体	
	細	都市のサイン
	中	都市のサイン
ゴシック系	太	都市のサイン
	○石井ゴシック体	
	細	都市のサイン
ゴシック系	中	都市のサイン
	太	都市のサイン
	○ゴナ体	
ゴシック系	D	都市のサイン
	DB	都市のサイン
	B	都市のサイン
ゴシック系	○ナール体	
	M	都市のサイン
	D	都市のサイン
ゴシック系	E	都市のサイン

■欧文書体

セリフあり	○センチュリー	
	ライト	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq
	オールド	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq
セリフなし	ボールド	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq
	○ヘルベチカ	
セリフなし	レギュラー	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq
	デミボールド	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq
	ボールド	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq
セリフなし	○ユニバース	
	メティウム	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq
	デミボールド	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq
セリフなし	ボールド	ABCDEFGHIJKLMN abcdefghijklmnpq

■その他の外国語

中国語例：中文石井ゴシック体

北海道政府旧址(红墙)

韓国語例：ハングル文字中ゴシック体

훗카이도청 구청사 (빨간벽돌)

■標準案内用図記号の規格

標準案内用図記号（ピクトグラム）の使用は、抽象化と単純化された絵で、一見してその表現内容を理解させることができる、優れた情報提供手段となります。

標準案内用図記号の使用にあたっては、本基本計画では、国土交通省の関係公益法人である交通エコロジー・モビリティ財団の「一般案内用図記号検討委員会」がまとめた図記号とガイドラインに準拠することとします。

■標準案内用図記号のガイドライン

※一覧表はP 33～P 43

1. 図記号の使用に関しては、推奨区分を設定しています。使用にあたってはこれを遵守して下さい。

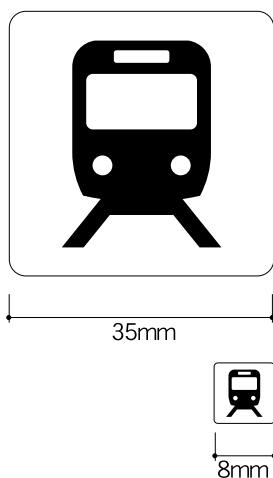
○推奨度 A：安全性及び緊急性に関わるもの、多数の利用者にとって重要なもの及び移動制約者へのサービスに関わるものです。これらについては、図形を変更しないで用いて下さい。

○推奨度 B：多数の利用者が通常の行動や操作をする上で、図記号の概念及び図形を統一することで利便性の向上につながります。これらについては、図形を変更しないで用いて下さい。

○推奨度 C：多数の利用者が通常の行動や操作をする上で、図記号の概念を統一することが必要なものです。これらについては、基本的な概念を変えない範囲で適宜図形を変更して用いることができます。

○参 考：このほか、ISO が参考図形として示している一般案内用図記号のうち、わが国での使用は少ないと予測されるが、項目としての必要性を認められるものは、図形表現についての検討を行わないで「参考」とします。

(図1)



2. [注1] の表記がある図記号は、文字による補助表示が必要です。図記号単独での使用は避けて下さい。その際の文字表示は、各図記号の併記名称を参考にして下さい。

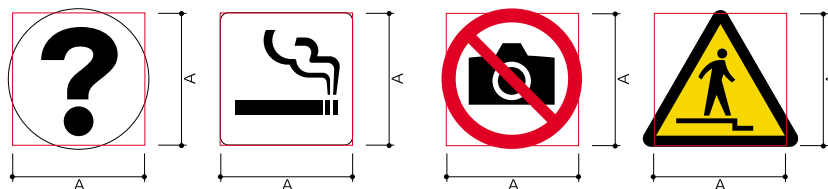
3. [注2] の表記がある図記号は、図記号中の通貨記号を必要に応じて他の通貨記号に変更することができます。

4. ガイドラインの図記号は、視距離1mで表示する場合の最小寸法を35 mm 角、手にとって見ることのできる地図類に用いる場合の最小寸法を8 mm 角とする条件で設計されています。これより小さくして使用することは避けて下さい。（図1）

※本基本計画において、地図内に用いる場合の最小寸法は、12mmを目安とします。

5. ガイドラインの図記号は、正方形・円形・三角形が同じ大きさに見えるように、寸法を調整してあります。これら三種の外形を持つ図記号を混用して拡大・縮小する際は、この点に留意して下さい。（図2）

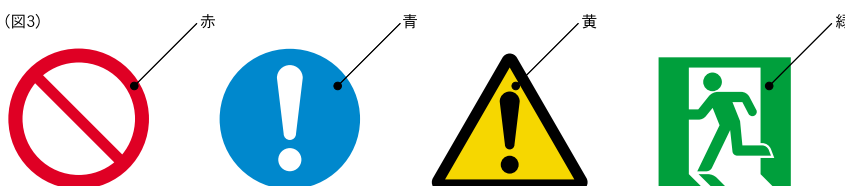
（図2）



6. 赤、青、黄、緑が使用されている図記号は、[JIS Z 9101-1995安全色及び安全標識] によっています。使用の際は、次のマンセル値を参照して下さい。（図3）

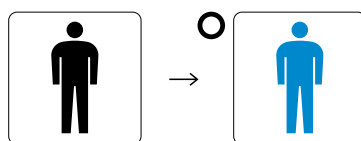
・安全色 赤：7.5R4/15 青：2.5PB3.5/10 黄：2.5Y8/14 緑：10G4/10
・対比色 白：N9.5 黒：N1

（図3）

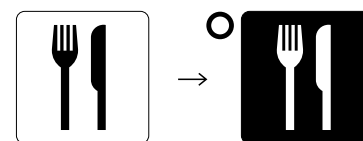


7. 白地に黒色で表現されている図記号は、前記の赤、青、黄、緑の安全色を除く、他の色彩に変更することができます。（図4）
また、図と地の関係を反転することができます。（図5）

（図4）

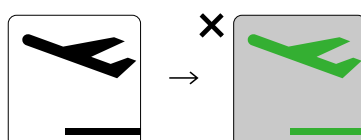


（図5）



8. 色彩あるいは明度を調整して使用する場合は、見やすさに配慮し、図と地色とのコントラストが十分明確になるようにして下さい。明度差は少なくとも5以上になるようにして下さい。（図6）

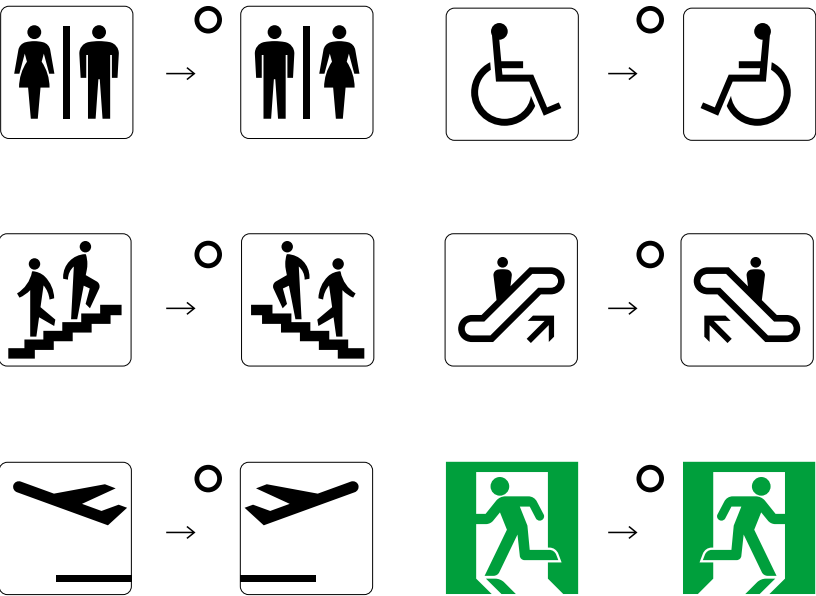
（図6）



標準案内用図記号

9. 図記号によっては、誘導方向や設置環境に応じて左右を反転することができます。（図7）

（図7）

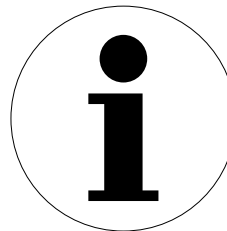


■公共・一般施設

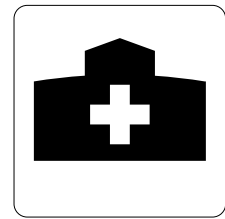
推奨度 A



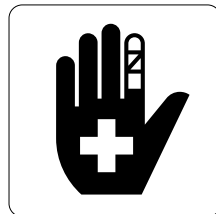
案内所
Question&answer



情報コーナー
Information



病院
Hospital



救護所
First aid



警察
Police



お手洗
Toilets



男子
Men



女子
Women



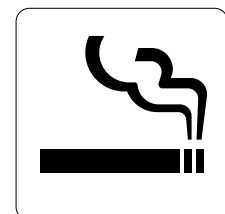
身障者用設備 ※
Accessible facility



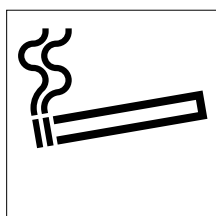
車椅子スロープ
Accessible slope



飲料水
Drinking water



喫煙所
Smoking area



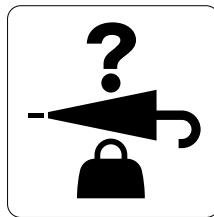
(備考) 火災予防条例で上記の図記号の使用が規定されている
場所には、上記の図記号を使用する必要がある。

■公共・一般施設

推奨度 B



チェックイン/受付
Check-in/Reception



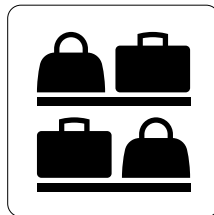
忘れ物取扱所
Lost and found



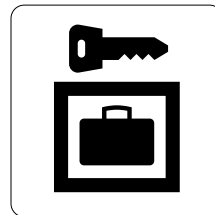
ホテル/宿泊施設
Hotel/Accommodatic



きっぷうりば/精算所
Tickets/Fare adjustment



手荷物一時預かり所
Baggage storage



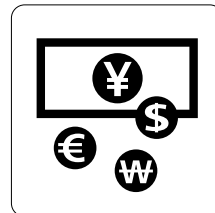
コインロッカー
Coin lockers



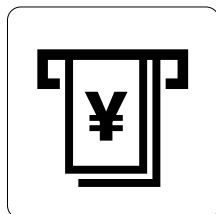
休憩所/待合室
Lounge/Waiting room



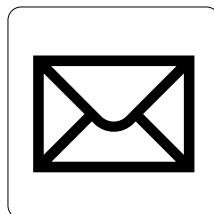
ミーティングポイント
Meeting point



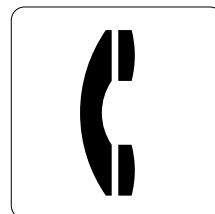
銀行・両替
Bank, money exchange



キャッシュサービス
Cash service
[注2] (通貨記号差し替え可)



郵便
Post



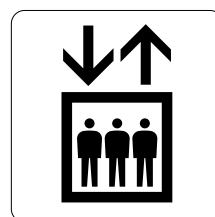
電話
Telephone



ファックス
Fax



カート
Cart



エレベーター
Elevator



エスカレーター
Escalator



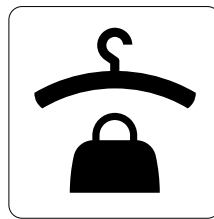
階段
Stairs



乳幼児用設備
Nursery

■公共・一般施設

推奨度 B



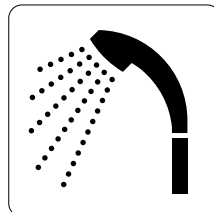
クローク
Cloak room



更衣室
Dressing room



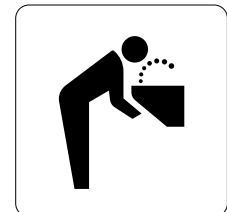
更衣室（女子）
Dressing room (women)



シャワー
Shower



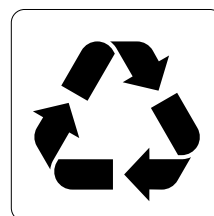
浴室
Bath



水飲み場
Water fountain



くず入れ
Trash box



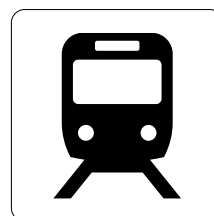
リサイクル品回収施設
Collection facility for the recycling products

■交通施設

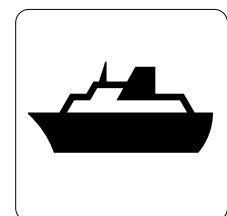
推奨度 B



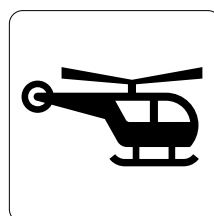
航空機/空港
Aircraft/Airport



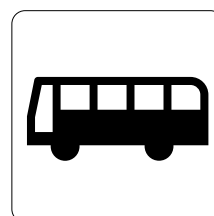
鉄道/鉄道駅
Railway/Railway station



船舶/フェリー/港
Ship/Ferry/Port



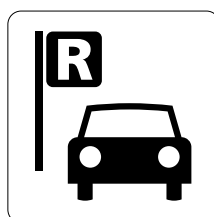
ヘリコプター/ヘリポート
Helicopter/Heliport



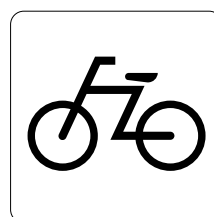
バス/バスのりば
Bus/Bus stop



タクシー/タクシーのりば
Taxi/Taxi stop



レンタカー
Rent a car



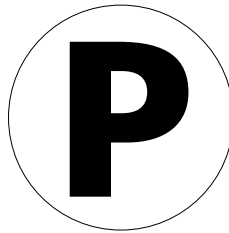
自転車
Bicycle



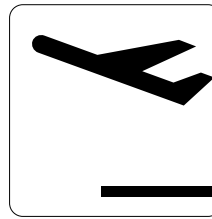
ロープウェイ
Cable car

■交通施設

推奨度 B



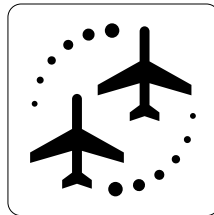
駐車場
Parking



出発
Departures



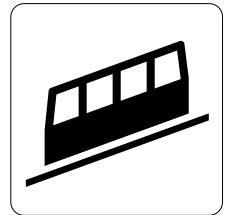
到着
Arrivals



乗り継ぎ
Connecting flights



手荷物受取所
Baggage claim



ケーブル鉄道
Cable railway



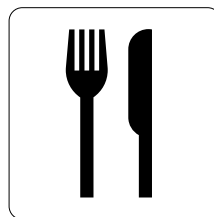
税関 / 荷物検査
Customs / Baggage check



出国手続 / 入国手続 / 検疫 / 書類審査
Immigration / Quarantine / Inspection

■商業施設

推奨度 B



レストラン
Restaurant



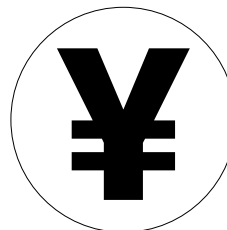
喫茶・軽食
Coffee shop



バー
Bar



ガソリンスタンド
Gasoline station



会計
Cashier [注2] (通貨記号差し替え可)

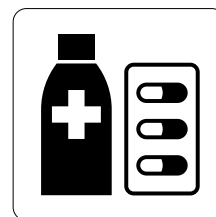
■商業施設
推奨度 C



店舗 / 売店
Shop



新聞・雑誌
Newspapers, magazines



薬局
Pharmacy



理容 / 美容
Barber / Beauty salon



手荷物託配
Baggage delivery service

■観光・文化・スポーツ施設
推奨度 B



展望地/景勝地
View point



陸上競技場
Athletic stadium



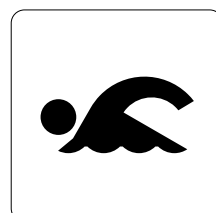
サッカー競技場
Football stadium



野球場
Baseball stadium



テニスコート
Tennis court



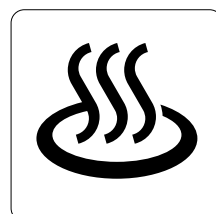
海水浴場/プール
Swimming place



スキー場
Ski ground



キャンプ場
Camp site



温泉
Hot spring

標準案内用図記号

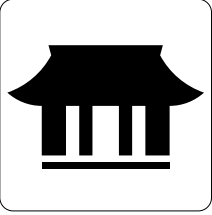
■観光・文化・スポーツ施設
推奨度 C



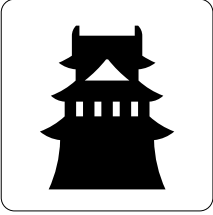
公園
Park



博物館 / 美術館
Museum



歴史的建造物
Historical monument

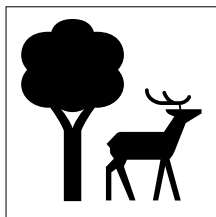


適用例 1
variant 1

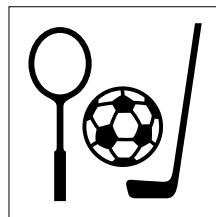


適用例 2
variant 2

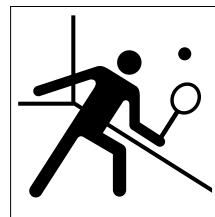
■観光・文化・スポーツ施設
参考



自然保護
Nature reserve



スポーツ活動
Sporting activities



スカッシュコート
Squash court



Tバーリフト
T bar lift



腰掛け式リフト
Chairlift

■安全
推奨度 A



消火器
Fire extinguisher



非常電話
Emergency telephone



非常ボタン
Emergency call button



非常口
Emergency exit



広域避難場所
Safety evacuation area

標準案内用図記号

■禁止

推奨度 A



一般禁止
General prohibition



禁煙
No smoking



(備考)
火災予防条例で上記の図記号の使用が規定されている場所には、上記の図記号を使用する必要がある。



火気厳禁
No open flame



進入禁止
No entry



駐車禁止
No parking



自転車乗り入れ禁止
No bicycles



立入禁止
No admittance



走るな/かけ込み禁止
Do not rush



さわるな
Do not touch



捨てるな
Do not throw rubbish



飲めない
Not drinking water



携帯電話使用禁止
Do not use mobile phones



電子機器使用禁止
Do not use electronic devices
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



撮影禁止
Do not take photographs



フラッシュ撮影禁止
Do not take flash photographs

■禁止

推奨度 B



ベビーカー使用禁止
Do not use prams
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



遊泳禁止
No swimming



キャンプ禁止
No camping

■禁止

推奨度 C



飲食禁止
Do not eat or drink here



ペット持ち込み禁止
No uncaged animals

■注意

推奨度 A



一般注意
General caution



障害物注意
Caution, obstacles
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



上り段差注意
Caution, uneven access/up



下り段差注意
Caution, uneven access/down



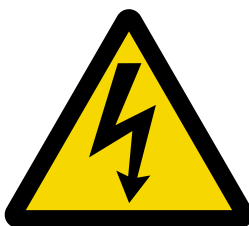
滑面注意
Caution, slippery surface



転落注意
Caution, drop
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



天井に注意
Caution, overhead

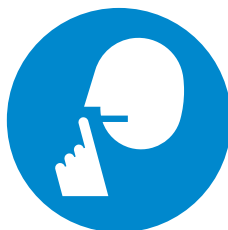


感電注意
Caution, electricity
〔注1〕（文字による補助表示が必要）

■指示
推奨度 A



一般指示
General mandatory



静かに
Quiet please



左側にお立ちください
Please stand on the left
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



応用例/右側にお立ちください
variant/Please stand on the right
〔注1〕（文字による補助表示が必要）

■指示
推奨度 B



二列並び
Line up in twos
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



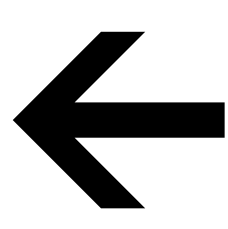
応用例 1/一列並び
variant 1/Line up single file
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



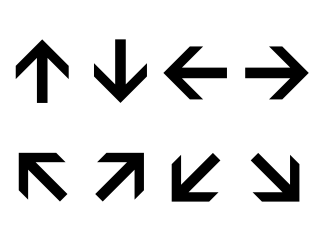
応用例 2/三列並び
variant 2/Line up in threes
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



応用例 3/四列並び
variant 3/Line up in fours
〔注1〕（文字による補助表示が必要）



矢印
Directional arrow



応用例
variants

■指示
参考



安全バーを閉める
Close safety bar



安全バーを開ける
Open safety bar



徒歩客は降りる
Get off

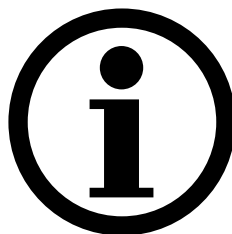


スキーの先を上げる
Raise ski tips



スキーヤーは降りる
Skiers have to get off

■その他の案内用図記号



情報コーナー i マーク
Information



道路 国道名

□身体障害用設備を備えた
「多機能便所」の組合せ
の例



お手洗
Toilets



身障者用設備 多機能便所
Accessible facility



身障者用設備 多機能便所
Accessible facility



お手洗
Toilets

□身体障害者・オストメイト・乳幼
児用設備を備えた「多機能便所」
の組合せの例



お手洗
Toilets



※オストメイト（人工肛門・人工膀胱造設者）の図記号は、交通エコロジ
ー・モビリティ財団発行の「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイ
ドライン 平成13年8月」に掲載されているもので、一般案内用図記号検
討委員会が策定した標準案内用図記号には含まれていません。

■地図中の案内用図記号

案内・誘導サインの地図中に案内用図記号を使用する場合には、凡例を
添付します。

■「本体」の色彩

サインでは、多くの場合、単体で認識されることはなく、背景などの周囲の要素との組み合わせによって印象づけられるものです。「本体」の色の検討に際しては、周囲の色とのバランスを考慮することが必要となります。

公共サインの場合は、街並みの基調色（背景となる建物の壁や舗道など、街路空間で最も大きな面積の色）と調和し、サイン自体が主張しない色彩としなければなりません。具体的には、暗いトーン（低明度・低彩度）の暗濁色を使用することとします。（P47参照）

しかし、サインを必要とする人に、その存在を明らかにするために、部分的なアクセントカラー（強調色）を使い、誘目性を高めることも必要です。サイン上部に黄色のラインとiマークを表示することで、サインの存在を強めることができます。（P83参照）

■「表示面」の色彩

□案内サイン

地図面のベースの色は、複雑な情報を分かりやすくするために、濃いページを基本とします。

次に、掲載情報は「街の骨格（道路・山・公園・川等）」、「施設（公共・民間）」、「主要交通機関」、「文字」などに分類し、段階的な輝度差（明るさの差）を設定します。

「街の骨格」を表す道路は、濃い暗青緑色とし、山、公園、川は、落ち着いた緑色と青色にします。

「施設」は、落ちついた有彩色（色味のある中間的な明るさと鮮やかさの色）とし、施設の種類ごとに色分けして即解性を高めます。

地下鉄、JR、市電、バス「主要交通機関」は、路線が明確に分かる鮮やかな色とします。

「文字」は、白と黒を基本に、補助的な情報（地域名等）には落ち着いた有彩色や灰色を使います。

□誘導サイン

「表示面」の色彩は、掲載情報を分かりやすく表示するために、ベースの色と文字の色の輝度差を大きくします。

濃い色のベースには文字色を白に、明るく淡いベースには黒などの濃い文字色にします。矢印は文字よりも目立たない色にする方が、「表示面」の即解性が高くなります。

■視認性

色彩の見えやすさは、視認性・明視性・識別性・誘目性によって表します。

「視認性」・・・対象を注視したときの存在の知覚のしやすさ

「明視性」・・・細部構造までの知覚のしやすさ

「識別性」・・・他の図との性質の差の区別のしやすさ

「誘目性」・・・選択的知覚のしやすさ

このうち、サインの記号や文字の分かりやすさの基本となる「視認性」は、次の単純な法則性があります。

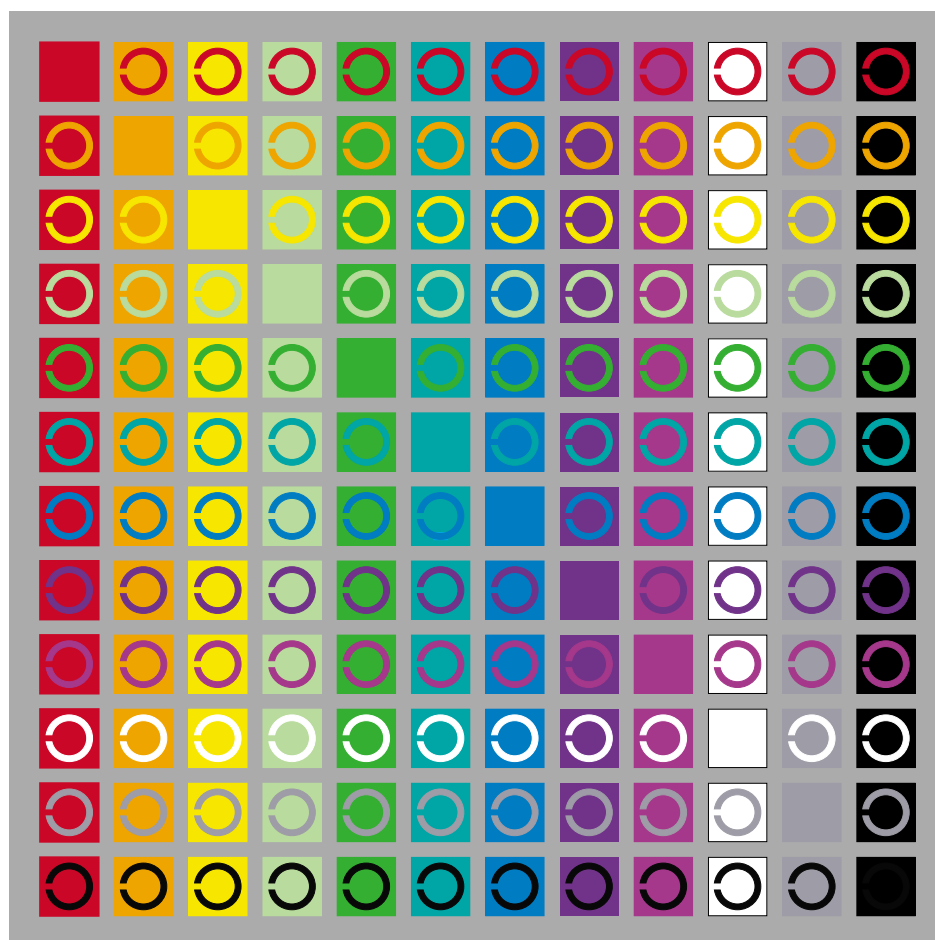
○背景との明るさ（明度）に差が大きいほど視認性が高くなります。

○2色の配色では、背景の明度が低いほうが視認性が高くなります。

□見えやすさ

右図は色の組み合わせ方によって「見えやすい」「目立つ」「目をひく」という配色を見つけだすことができます。

目を遠ざけて見るとより認識できます。



■参考文献：色彩感覚 近江源太郎著

■弱視者や高齢者に 分かりやすい配色



黄色は、弱視者に誘目性が高い
※点字ブロックやサイン本体の
i マークなど



赤色は、高齢者に誘目性が高い

■「表示面」の判読性

「表示面」の判読性については、地と図の色の組み合わせにおけるコントラスト（明度差）が大きいほど高くなります。また、同じ配色でも、暗い地に明るい文字を表示する方が膨張して見える他、白濁や視野狭窄等の視覚障害を持つ人にとっても、文字情報の周辺光がカットされ、より読みやすくなります。

地図内に用いる文字を除いては、一般的には濃い地色に明るい文字を表示します。



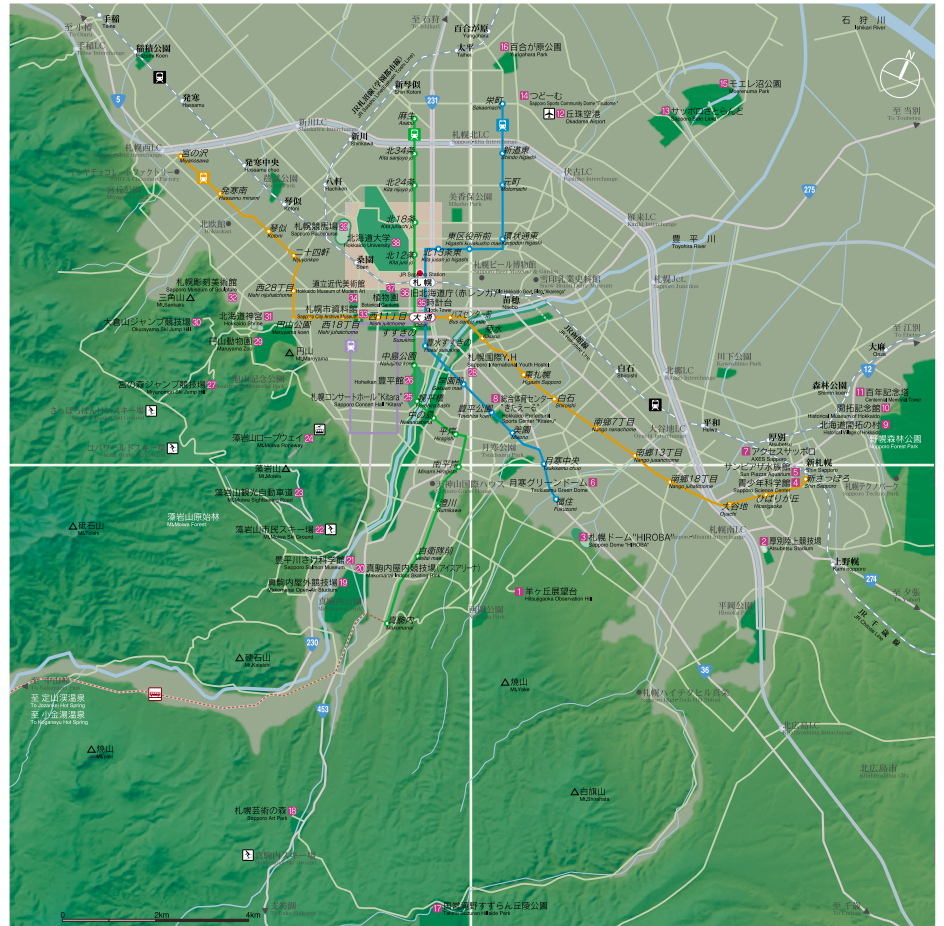
■屋内サインと薄暮

サインの「表示面」は、日中を基準にして考えられています。しかし、屋内などの場合は、明るさの環境がそれぞれ違います。駅構内のような薄暗い環境下では屋外と反対の視覚現象が起こり、白地に黒文字の表示の方が判読性と視認性を向上させます。（内部照明のものを除く）

同様のことは屋外では薄暮の時に起こります。

■地図面の色彩

地勢、公園・緑地、河川等の水系を示す場合には、それらが自然に見える配色を使用します。



■現在地マーク

重層した情報が納められている地図内で、視認性の重要度が最も高いパーツは現在地マークです。自然な色を基調とした地図面の中であって、現在地マークだけが目立つ赤色とします。

現在地マークの基本色は、日本塗料工業会 A05-40V(5R4/12 赤)とします。この色を基本として、地図の色調に合った赤系の色を選ぶこととします。



日本塗料工業会
A05-40V(5R4/12)

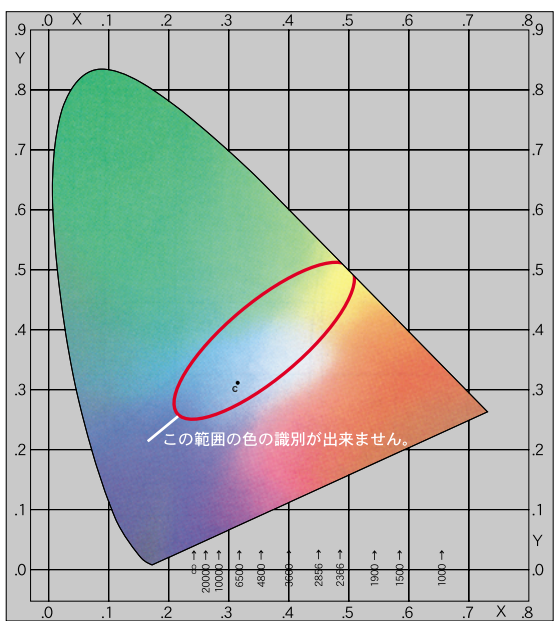
■高齢者への対応

視界黄変化（老人性白内障）

人の視覚は、加齢にともない視力は衰え、黄色のフィルターを通したように全体が黄色っぽく見える「視界黄変化」が進行し、誤認が増えてきます。

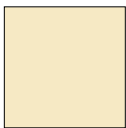
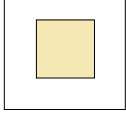
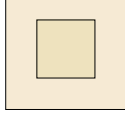
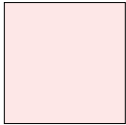
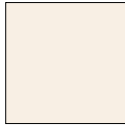
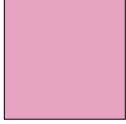
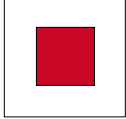
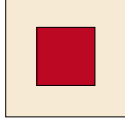
視認性の確保には、色相（色味）よりも輝度差（明るさの差）が決め手となります。濁色（灰色が混じった色）よりも清色（白と黒のいずれかを混ぜた色）の方が識別しやすくなります。

また、色の判別では、黄色と青色の区別が特に誤認されやすい色相です。

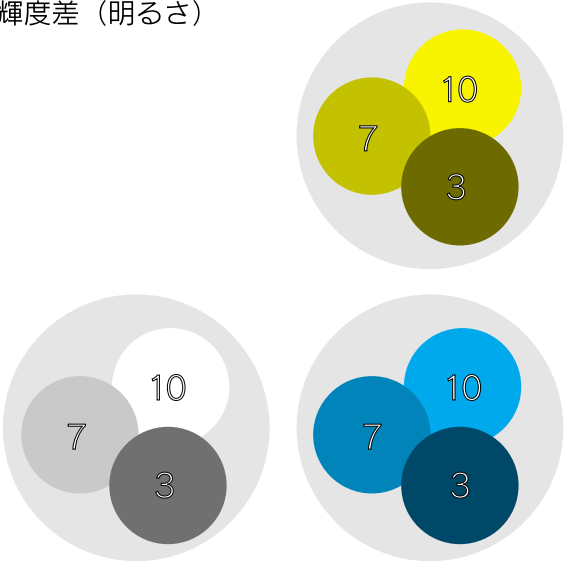


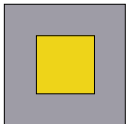
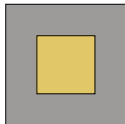
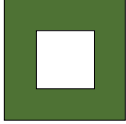
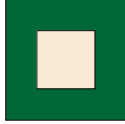
■CE 1931 xy色度図

参考文献：色覚と色覚異常 東京医科大学名誉教授 太田安雄
前東京医科大学講師 清水金郎共著

	▶		□ 淡い黄色は、ほとんど白に見えます。
	▶		□ 白地に淡い黄色は、ほとんど白に見え黄色の判別が出来ません。
	▶		□ 淡いピンク色は、ほとんど白に見えます。
	▶		□ えんじ色は、ほとんどそのままに見えます。
	▶		□ 白地に赤色は、ほとんどそのままに見え色の判別出来ます。

□輝度差（明るさ）



	▶		□ 濃い灰（黒）地に黄色は、色の判別出来ます。
	▶		□ 濃い緑地に白色は、色の判別出来ます。

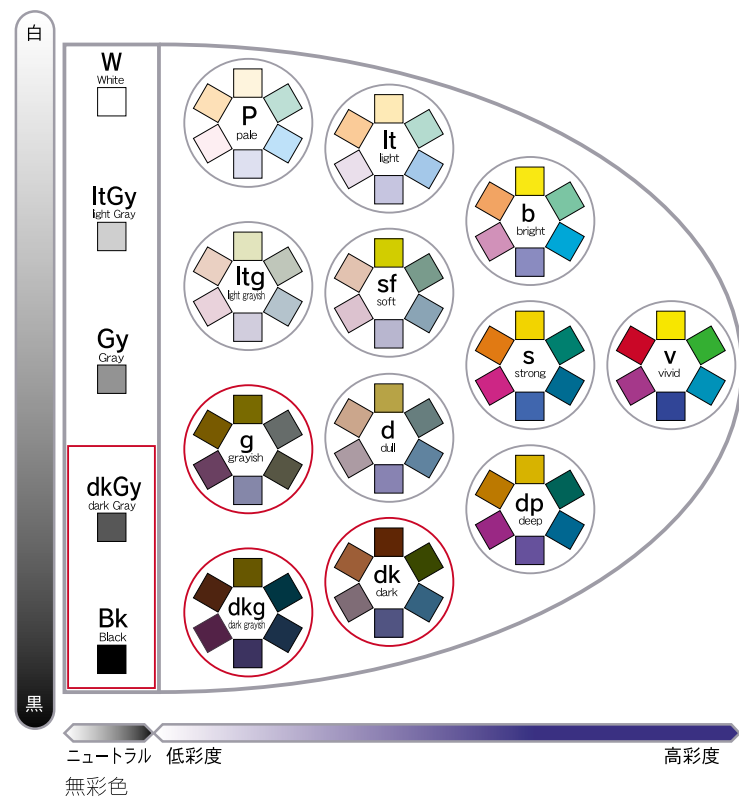
※黄色のフィルターを通して見える色

※数字は明るさを表しています。

■サイン「本体」の色の範囲 「本体」の色の範囲は、トーンによって設定します。その範囲は、dkGy, Bk,dkg,dk,gとします。

但し、すでにサインシステムの整備が行われている場合は、既設サインの色彩と調和させた方が、景観としての質が高くなります。

□PCCSのトーン分類



■サイン「本体」の色彩例
「札幌市観光サイン」



dkg程度 (PANTONE 5463 C)

「参考設計例の色彩」



g程度 (DIC F-249)

日本語の表記

表示情報の分かりやすさや見やすさは、表示内容を簡潔なものにすることで実現されます。施設名称を正式名称にこだわりすぎると、表示面が煩雑になり、分かりにくい表示面になります。このため施設名称は、知名度の高いものほど簡略し、すっきりした表示面を構成することが重要です。

また、数字表記や紀年表記などは、一貫した表記を行い、混乱を避けま

■日本語の表記基準

□表記例

●原則として、国文法、現代かなづかいによる表記を行います。但し、固有名詞においてはこの限りではありません。

●施設名等は、以下の項目を考慮し、適切で分かりやすい表記を行います。

○表示面の煩雑化を防ぐため、明確に理解される範囲内で省略します。

○正式名よりも明らかに理解されやすい通称名がある場合は、その名称を用います。

○複合的な施設は、目的に応じて省略するべき部分を省略します。

○アルファベットによる名称が慣用化されている場合は、その名称を用いてもかまいません。

○類似施設が多く、混乱を招く可能性がある場合は、正式名称を用います。

○植物園
(北海道大学農学部附属植物園)

○スピカ
(札幌メディアパーク)

○円山公園

○J R札幌駅

○北海道庁旧本庁舎
(北海道庁)

●数字の表記は、原則として算用数字を用います。但し、固有名詞として用いる場合は、この限りではありません。また、地名として用いる場合は、漢用数字を用います。

○7月7日 四番街

○二十四軒

●地名、歴史上の人物名などの読みにくい漢字には、ふりがなを付記する配慮をします。

●紀年は、西暦により表記します。また、必要に応じて日本年号を付記してもかまいません。

○2002年
2002年(平成14年)

外国語の表記

3-7⁻¹

〈国際部編集「英文表記ガイドライン」抜粋〉

■英語の表記基準

英語の表記は、原則的に英語とローマ字の組み合わせになりますが、ローマ字は一般的なヘボン式を基本に、正確に情報を伝えるために改良を加える配慮が必要になります。

■ヘボン式のつづり方

昭和29年12月9日付け内閣告示、第二項による

あ	a	い	i	う	u	え	e	お	o
か	ka	き	ki	く	ku	け	ke	こ	ko
さ	sa	し	shi	す	su	せ	se	そ	so
た	ta	ち	chi	つ	tsu	て	te	と	to
な	na	に	ni	ぬ	nu	ね	ne	の	no
は	ha	ひ	hi	ふ	fu	へ	he	ほ	ho
ま	ma	み	mi	む	mu	め	me	も	mo
や	ya			ゆ	yu			よ	yo
ら	ra	り	ri	る	ru	れ	re	ろ	ro
わ	wa								
ん	n								
が	ga	ぎ	gi	ぐ	gu	げ	ge	ご	go
ざ	za	じ	ji	ず	zu	ぜ	ze	ぞ	zo
だ	da	ぢ	ji	づ	zu	で	de	ど	do
ば	ba	び	bi	ぶ	bu	べ	be	ぼ	bo
ぱ	pa	ぴ	pi	ぷ	pu	ぺ	pe	ぽ	po
きゃ	kya			きゅ	kyu			きょ	kyo
しゃ	sha			しゅ	shu			しょ	sho
ちゃ	cha			ちゅ	chu			ちょ	cho
にゃ	nya			にゅ	nyu			によ	nyo
ひゃ	hya			ひゅ	hyu			ひょ	hyo
みゃ	mya			みゅ	myu			みょ	myo
りゃ	rya			りゅ	ryu			りょ	ryo
ぎゃ	gya			ぎゅ	gyu			ぎょ	gyo
じゃ	ja			じゅ	ju			じょ	jo
ぢゃ	ja			ぢゅ	ju			ぢょ	jo
びゃ	bya			びゅ	byu			びょ	byo
ぴゃ	pya			ぴゅ	pyu			ぴょ	pyo

■表記

大文字でも小文字でもよい。ただし、小文字で綴る場合、各単語の頭文字は大文字で表記する。また、冠詞、前置詞、接続詞が名称の途中にある場合は、それらについては小文字で表記する。

- ・市役所 CITY HALL
- ・大通 Odori Park
- ・札幌市 City of Sapporo
- ・東札幌 Higashi-Sapporo

(1) 長音

『ˉ(バー)』, 『^』, 『h』は用いない。

- ・大通 Odori ×Ôdori
- ・大谷地 Oyachi ×Ohyachi

*長音記号を用いないと他の名称と区別できない場合は、例外的に『h』を用いて長音を表記することができる。

- ・大野 Ohno 小野 Ono

外国語の表記

(2) はねる音

はねる音「ん」は『n』を用いるが、「b」、「m」、「p」の前では『m』を用いる。

- ・新川 Shinkawa
- ・南北 Namboku ×Nanboku

*はねる音を表す「n」と次に来る母音字または「y」とを切り離す必要がある場合は、「n」の次に『-(ハイフン)』を入れる。

- ・真栄 Shin-ei

(3) つまる音

最初の子音字を重ねて表す。ただし、次に「ch」が続く場合は、「c」を重ねず『t』を用いる。

- ・発寒 Hassamu
- ・西18丁目 Nishi-juhatchome ×Nishi-juhacchome

(4) 省略形

英訳した普通名詞は完全な綴りで表記することを原則とし、スペースの都合でやむを得ない場合に限り、英語に慣用化されている省略形を用いてもよい。

[略語表参照]

- ・北海道大学 Hokkaido University → Hokkaido Univ.

■施設名等の表記方法

(1) 一般施設、河川、橋梁、山、寺社の名称

固有名詞部分はローマ字表記とし、普通名詞部分は英訳して表記する。

i) 一般施設

- ・札幌市役所 Sapporo City Hall
- ・大通公園 Odori Park

*施設名が固有名詞化したもので、ローマ字表記だけでは施設の内容を説明できない場合は、施設の内容を表す普通名詞を英訳して()書きで付記することができる。

- ・豊平館 Hoheikan (Historical Guest House)

ii) 河川 『固有名詞 River』

- ・豊平川 Toyohira River

*慣用上、固有名詞と普通名詞を切り離せない場合は、普通名詞の部分を含めてローマ字による表記とし、必要に応じて英語を付記する。

- ・新川 Shinkawa River

iii) 橋梁 『固有名詞 Bridge』

・幌平橋 Horohira Bridge

*慣用上，固有名詞と普通名詞を切り離せない場合は，普通名詞の部分を含めてローマ字による表記とし，必要に応じて英語を付記する。

・定山渓大橋 Jozankei-ohashi Bridge

・二見つり橋 Futami-tsuribashi Bridge

iv) 山 『Mt. 固有名詞』

・藻岩山 Mt. Moiwa ×Mt. Moiwayama

*慣用上，固有名詞と普通名詞を切り離せない場合は，普通名詞の部分を含めてローマ字による表記とし，必要に応じて英語を付記する。

・三角山 Mt. Sankakuyama ・円山 Mt. Maruyama

v) 寺社 『固有名詞 Temple』『固有名詞 Shrine』

・北海道神宮 Hokkaido Shrine

*慣用上，固有名詞と普通名詞を切り離せない場合は，普通名詞の部分を含めてローマ字による表記とし，必要に応じて英語を付記する。

・東本願寺 Higashi-honganji Temple

■通り、地域、駅の名

英訳せずローマ字で表記する。

i) 通り 『固有名詞 - dori』

・駅前通 Ekimae-dori

・北1条通 Kita 1-jo-dori

*「大通」については，『- (ハイフン)』で結ばず，Odoriと表記する。

ii) 地域

・宮の沢 Miyanosawa

*「町」の名称がつく場合，『固有名詞 - machi』『固有名詞 - cho』にて表記する。

・円山西町 Maruyama Nishi-machi

*「東，西，南，北，上，中，下，新」の接頭語が固有名詞の前につく場合，次に続く固有名詞と『- (ハイフン)』で結ぶ。但し，本来の意味を失ったもの，接頭語も含んで一体の固有名詞と考えられるものについては『- (ハイフン)』で結ばない。また，小文字で綴る場合，『- (ハイフン)』に続く地名の頭文字は大文字とする。

・東札幌 Higashi-Sapporo

・新琴似 Shin-Kotoni

・元町 Motomachi ×Moto-machi

・新川 Shinkawa ×Shin-kawa

共通基準

外国語の表記

3-7⁻⁵

略語表

正 式 表 記
省 略 形
Administration
Admin.
Association
Assn.またはAssoc.
Avenue
Ave.
College
Coll.
Corporation
Corp.
Department
Dept.
District
Dist.
Division
Div.
Dormitory
Dorm
Elementary School
Elem. Sch.
Expressway
Expwy.
Government
Govt.
Gymnasium
Gym
High School
H.S.
Hospital
Hosp.
Information
Inf.
Institute
Inst.
Junior College
Jr. Col.

正 式 表 記
省 略 形
Junior High School
Jr. H.S.
Laboratory
Lab.
Library
Lib.
Management
Mgt.
Museum
Mus.
National
Natl.
Prefecture
Pref.
River
Riv.
Route
Rte.
School
Sch.
Section
Sect.
Station
Sta.
Street
St.
Television
TV
University
Univ.またはU.
* 省略形の後には原則として 『.(ピリオド)』を付ける。 (Dorm, Gym, TVを除く)

公共サインは、原則としてメンテナンスフリーであるべきですが、現実として材料や工法は永久的なものではなく、時間と共に情報も変化するものです。設置したサインの美観を保ち、長く維持していくためには、補修や改造に対応できるシステム作りが必要です。

■サイン本体のメンテナンス サイン管理台帳を作成し、管理上必要な基本データを整理することで、新旧のサインの調整を図り易くします。

また、メンテナンス記録簿を作成し、定期的な清掃・保守点検を行うとともに、破損や情報の部分的な補修をすることにより、美観維持や情報の正確性を保つことができます。（資料編に作成例を添付）

■情報のメンテナンス サインの情報を効率よく経済的に更新するためには、「本体」から「表示面」を取り外し可能な構造とし、短期と長期に分けてメンテナンスすることが有効です。

○短期メンテナンス

1年を目処に表示内容を見直し、ごく部分的な変更を、修正用シート貼りなどで対応します。

○長期メンテナンス

5年を目処に全面的に見直し、必要に応じ「表示面」部を取り替えます。

■情報通信技術(IT)と 公共サイン

札幌市情報化推進構想では、コミュニケーションの活性化に視点を置き、情報結縁都市さっぽろの実現を目指しています。公共サイン基本計画は、より多くの人々にわかりやすい情報提供を行うという側面から、こうした情報通信技術（IT）の分野においても、生かされていく場面があると考えています。

ITは、今後においても常に新たな手段やシステムが考えられていきます。現段階においては、ケースごとの具体的な基準は示しませんが、IT技術を使った情報提供を行う場合においても、本基本計画に示す目的のほか、「情報掲載基準」や「日本語の表記」「外国語の表記」などの考え方を有効に活用してください。

■IT 関連情報化構想

現在、様々なIT 関連情報提供構想が進行中です。

〈主な構想〉

- ☐ さっぽろフット・ナビ（Web・携帯端末機）
- ☐ キオスク端末機（Web）
- ☐ 電光掲示板・インフォビジョン（映像メディア）
- ☐ 放送系（映像メディア）

地図の向き・範囲・縮尺

4-1⁻¹

案内サインに添付する地図は、広域案内図（市または区全体）、地区案内図（広域案内図と街区案内図との中間）、街区案内図（歩行圏）の3種類に分けられます。

また、このうち街区案内図（300×300）は、誘導サインに添付する場合もあります。

■案内地図の向き

地図の向きは、設置場所の道路軸に合わせます。これはサインに向かって前方を上とします。

■範囲・縮尺

□広域案内図

板面サイズ	範囲	縮尺（目安）
1500×1500	全市約20km四方（地図面1200×1200）	1/17,000 程度
900×900	全市約20km四方（地図面700×700）	1/30,000 程度
	各区約5km四方（地図面700×700）	1/10,000～15,000 程度

□地区案内図

板面サイズ	範囲	縮尺
1500×1500	約5km四方（地図面1200×1200）	1/4,000 程度
900×900	約5km四方（地図面700×700）	1/7,000 程度
	約3.5km四方（地図面700×700）	1/5,000 程度

□街区案内図

板面サイズ	範囲	縮尺
1500×1500	約900m四方（地図面1200×1200）	1/800 程度
900×900	約900m四方（地図面700×700）	1/1,300 程度
600×600	約400m四方（地図面600×600）	1/600 程度
300×300	約200m四方（地図面300×300）	1/600 程度

■「広域案内図」

項目		名称の表示	標準案内用図記号等	色彩による表示
地勢	地勢	河川、湖沼、港湾、山、 自然保護地区等		名称を表示するもの全て
	地域区分	複数の丁目を持つ町名は丁目を 除いた町名表示をする	市境界線・区境界線	該当域内・域外を色面の切り 替えて示す
	道路	国道/有料道路 インターチェンジ 国道・有料道路に行き先表示	 （例）	有料道路・国道・主要地方道 バス路線となる道路を表示
交通機関	鉄道	鉄道・地下鉄などの交通の路線 名/駅名	 （線路上	全ての路線/駅舎 区内外含め路線・駅名を表示
	バス	バスターミナル （駅に近接する場合は省略）		
	空路	空港		
公園		主要な公園名		街区公園より大規模な公園を 図示
建物	公共施設	利用者が広範囲・不特定な施設（市庁舎、区庁舎、札幌ドーム等）		
	公共的施設	利用者が多い主要施設 民間施設		

■「地区案内図」

項目		名称の表示	標準案内用図記号等	色彩による表示
地勢	地勢	河川、湖沼、山、自然保護地区等		名称を表示するものの全て
	地域区分	町条丁目		町丁区分・区界
	道路	道路の名称が複数ある場合は道路通称名を優先させる 国道・有料道路	 (例)	基本的に公道全てを表示 歩行者専用道/広場等を表示
	橋	移動の手がかりとなる橋		
交通機関	鉄道	鉄道・地下鉄などの交通の路線名/駅名	 (線路上)	全ての路線/駅舎
	バス	バスターミナル/バス停 行き先(至)表示	 バスターミナル	バス路線
	空路	空港		
公共施設	公園	街区公園より大規模な公園		公園・緑地全てを図示
	公共施設	主要な公共施設		
	警察署	警察署	 (派出所は図記号のみ表示)	
	郵便局	普通郵便局	 (特定局・簡易郵便局は図記号のみ表示)	
	教育施設	小学校・中学校・高等学校 大学・短期大学など		
	医療施設	総合病院・大学病院・公立病院		
公共的施設	文化的施設	図書館・美術館・博物館・劇場 ホール・動物園・植物園・遊園地など		施設名称を表記してある建物の建物平面形を図示
	公益企業	NTT・ガス会社・電力会社の本支店		
	金融機関	都市銀行・地方銀行・信用金庫		
	報道機関	放送局 (CATV以外の有線放送は除く) 新聞社		
	史跡名勝	国又は自治体の指定する文化財・史跡 名勝として重要な神社・寺院・教会等		
	その他	商工会議所・観光協会・各種財団 地下街 (ビルの地下街は除く)	 (観光案内所)	
民間施設	宿泊施設	札幌市宿泊施設一覧参照		
	商業施設	移動の手がかりとして必要な場合は 第一種または第二種大規模小売 店舗名を掲載する		
	商店街	札幌市商店街総連合会に加盟し 〇〇通り等の地名的名称を有する商店街		
	団地	行動の手がかりとなる団地名は 掲載する		
	その他	広範囲にわたり視認可能な高さを有する施設 道路の結節点に位置し、地点認識に有効と考えられる施設		

「街区案内図」

項目		名称の表示	標準案内用図記号等	色彩による表示
地勢	地勢	河川、緑地		山/緑地/河川など
	地域区分	町条丁目		町条丁区分
	道路	道路の名称が複数ある場合は道路通称名を優先させる 国道・有料道路・プロムナード	道路場の段階には標準案内用図記号表示	公道全て(必要に応じて歩道)歩行者専用道/広場等を表示
	橋	準用河川以上の河川に架かる橋で移動の手がかりとなる橋		
交通機関	鉄道	鉄道・地下鉄などの交通の路線名/駅名	 (線路上)	全ての路線/駅舎
	バス	バスターミナル/バス停	 (バスターミナル)	バス路線
	タクシー		 (タクシーのりば)	
公共施設	公園	街区公園以上の公園		公園・緑地全てを図示
	公共施設	地区レベルで利用が見込める公共施設		施設名称を表記するものは建物平面形を色面で表す 建物の入口を表示する必要がある施設は、外構植栽等で表示する
	警察署	警察署	 (派出所は図記号のみ表示)	
	郵便局	普通郵便局	 (特定局・簡易郵便局) は図記号のみ表示)	
	教育施設	小学校・中学校・高等学校・大学短期大学など		
	医療施設	総合病院・大学病院・公立病院 上記以外の救急病院		
公共的施設	文化的施設	図書館・美術館・博物館・劇場 ホール・動物園・植物園・遊園地など		施設名称を表記するものは建物平面形を色面で表す 建物の入口を表示する必要がある施設は、外構植栽等で表示する
	公益企業	NTT・ガス会社・電力会社の本支店 公団・公社		
	金融機関	都市銀行・地方銀行・信用金庫		
	報道機関	放送局 (CATV以外の有線放送は除く) 新聞社		
	史跡名勝	国又は自治体の指定する文化財・史跡名勝として重要な神社・寺院・教会等		
	その他	商工会議所・観光協会・各種財団 地下街 (ビルの地下街は除く)	 (観光案内所)	
民間施設	宿泊施設	札幌市宿泊施設一覧参照		
	商業施設	移動の手がかりとして必要な場合は第一種大規模小売店舗名を掲載する		
	商店街	札幌市商店街総連合会に加盟し〇〇通り等の地名的名称を有する商店街		
	団地	行動の手がかりとなる団地名称は掲載する		
	その他	広範囲にわたり視認可能な高さを有する施設。道路の結節点に位置し、地点認識に有効と考えられる施設		
観光コース	観光施設	コースにある施設を掲載	起終点から順に番号を表示	コースをラインで掲載

地図内の使用書体については、共通基準の中で（p 25参照）和文はゴナ体、欧文・数字はヘルベチカ、その他の文字は角ゴシック系書体としています。

■和文

中央区 ゴナD

中央区 ゴナDB

中央区 石井中明朝

■欧文

Chuo Ward ヘルベチカライト

Chuo Ward ヘルベチカレギュラー

■数字

0123456789 ヘルベチカライト

0123456789 ヘルベチカレギュラー

■和文と英文の比率

中央区役所	a
Chuo Ward Office	0.3a
	3a/4

■行合わせ

中央区役所
Chuo Ward Office

頭合わせ ○

中央区役所
Chuo Ward Office

末尾合わせ ○

中央区役所
Chuo Ward Office

センター合わせ ×

中央区役所
Chuo Ward Office

均等合わせ ×

※地図内文字の使い分けにより例外がある。

（次項参照）

■地図内文字の使い分け

案内地図においては、公共施設や宿泊施設等の建物種別、その他地図情報の優先度に応じた文字の太さや色の濃淡の変化によって、掲載情報の判読性を高めます。

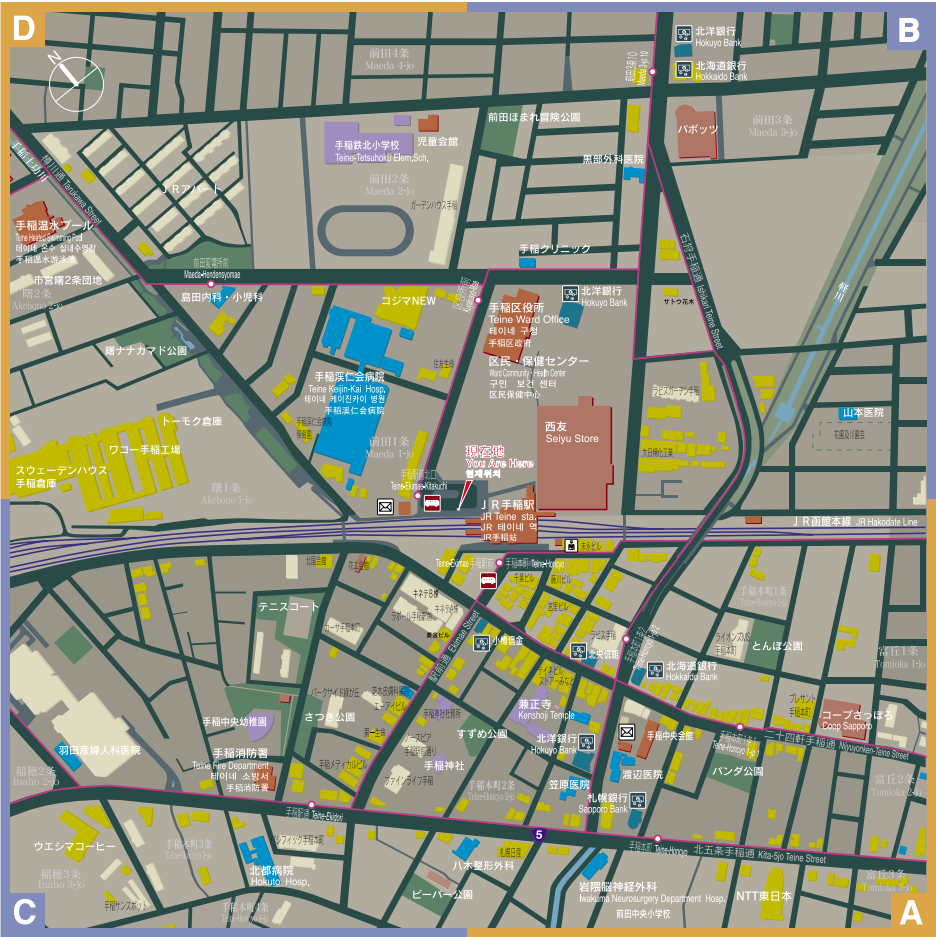
□明朝体とする文字

ただし、区名・町丁名・河川名等は、案内地図の基本的な構成要素となるため、更に情報の階層性を下げ、明朝体を使用します。また、これらについては、例外的にセンター合わせとすることで識別性を確保します。

地域区分（市・区名・町丁名）、河川名、至る表示等

和文：石井中明朝
 欧文：センチュリー

中央区
 Chuo Ward
 豊平川
 Toyohira River



■現在地マーク

地図中の現在地マークの大きさの目安として、地図面中で最も多く用いられている文字高より、現在地の文字高が2割程度大きな寸法とします。

○マークの置き方



和文 「現在地」
ゴナE 字送りベタ

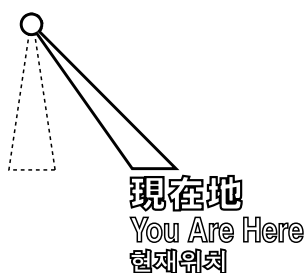
欧文 「You Are Here」
ヘルベチカボールド

ハングル文 「현재위치」
ハングル文字太ゴシック

色彩 日塗工 A05-40V
日塗工 AN-95



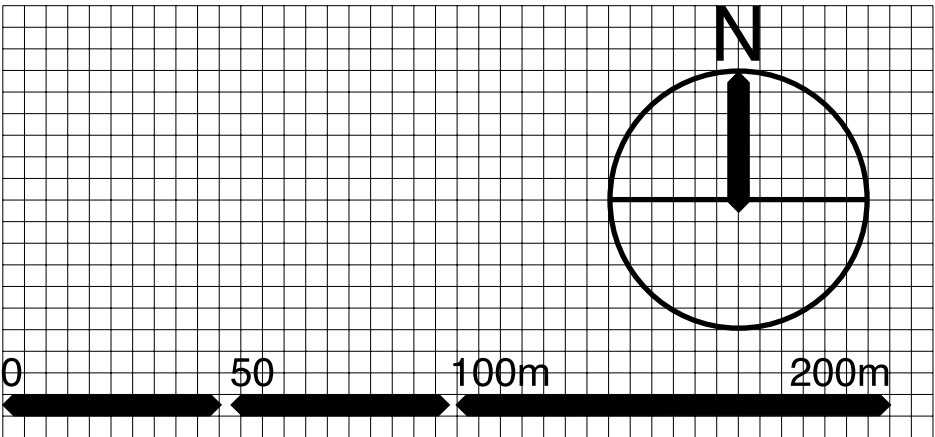
○マークの変形



現在地マークを置く場所に他の情報等の障害がある場合は、マークの高さを守りながら横方向に変形を行います。

地図内共通記号

■ オリエンテーション
バースケール



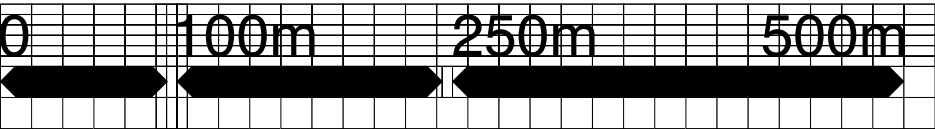
Nの文字・数字
ヘルベチカレギュラー

色彩 日塗工 AN-95 を基本とします。

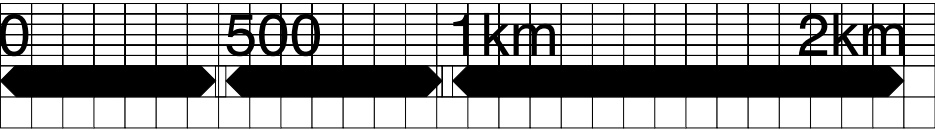
バースケールの例



街区案内図用



地区案内図用



広域案内図用